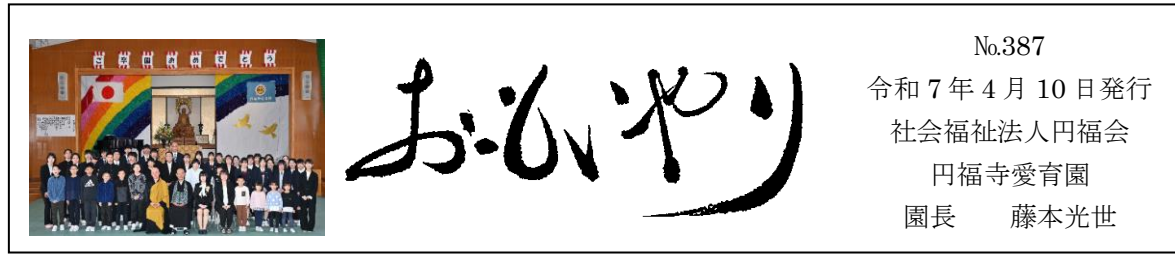


今年の卒園式は、とても感動しました。



子どもの幸せ

園長 藤本光世

1. 長野県社会的養育推進計画（後期計画）と社会的養育の目的

令和7年3月に長野県から出された『長野県社会的養育推進計画（後期計画）』に初めて『幸せ』の文字が入りました。

表題に『こどもであるあなたがいま・ここで 幸せに育ち 自分らしく生きていくために』と。

これまで「パーマネンシー保障」とか「子どもの最善の利益」などという言葉が表に出て、いったいそれは何だろうか何のためだろうか、誰もが思ったのではないかと思います。内容について議論もなく進めてきて、ここにきて「幸せ」の文字が入ったのは、私が児相との懇談会や「おもいやり」などで社会的養護の使命は子どもの幸せのためにあると、強く言い続けてきたことが取り上げられたのかなあと思いました。

いや、違っていました。あたりまえですね。

令和5年4月に施行されたこども基本法の第1条（目的）に、すべての子どもが『将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して』とありました。なーんだここに書いてあるじゃんか。

私はこれまで『推進計画』にあった『子どもの最善の利益の実現』とは、目標であって、目的ではないと思っていました。『家庭的養護推進』も『子どもの権利の実現』も目標であって目的ではありません。

第1条に（目的）と書いてあるように『将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現』こそ目的なのです。

これは、はっきりとそしてしっかりと長野県に言いたいです。「自分らしく生きる」とは、こども基本法の目的には書いてありません。なぜ、わざわざそう書くのでしょうか。長

野県は「自分らしく生きる社会の実現」＝「幸福な生活を送る社会の実現」と考えているのでしょうか。分かりません。こども基本法の目的と、長野県社会的養護推進計画の目的とことばを変えてほしくありません。

「自分らしく生きる」とはどのようなことであるか。

「自分らしく生きる」と「幸福な生活」は結びつくのか。結びつくとなればどんな根拠があってであるか。

私には、「自分らしく生きれば、あとのことは子ども、養育者の自己責任としているように覚えてなりません。養育者も、養育される子どもも可哀そうです。

2. 幸福について

後期計画では『幸福について』触れています。でも『この新しい計画について話し合う時間が無くなってしまふので』と、そして『ここでは話し合わないで皆さんそれぞれに考えていただくことでいかがでしょうか。』と逃げているのです。（96p）

そして、逃げているにもかかわらず、『「今」は幸福でなくても、「将来」は幸福になるよ」ということですか？』とわざわざ質問させて、「どうしてもこのように誤って理解する。」とその考えが誤りであることを強調し、「いまも、そしてこの先の未来においても幸福な生活を送ること」と言い直しているのです。「幸福」が分からないのに、なんでここだけ強調するのでしょうか。

不思議です。不思議な後期計画です。

昔、鍵山秀三郎先生のご講演で「少女パレアナ」のお話を聴きました。

この子は、人を喜ばせることをいつも考えていて、人が喜んでくれると嬉しい（幸福）なのです。

人には三つの喜び方（幸福）があると話されました。

一、何かもらって嬉しい（幸福）。貰えば嬉しいでしょう。これは動物も同じですね。犬は尾を振って喜びますよ。何かしてもらって嬉しい、もこのレベルですね。

二、何か、できるようになると嬉しい。（幸福）

この冬のシーズンに、たくさんの方のご支援をいただき、愛育園の子どもたちは、約12回もスキー場に行き、一日中スキーやボードで滑ることができました。みんな本当に喜びました。できるようになったからです。

ある子は、ある子からいつも馬鹿にされていて暴言を受けていたのが、ボードがその子より上手になって（くるくるができるのですよ）、馬鹿にされることが減り、しかも賞賛の言葉を受けようになり、大きな自信を得たという報告を受けました。すごいです。

みんなとっても嬉しそうにスキーに行きます。

三. 人が喜ぶのが嬉しい (幸福)

これは最高レベルの幸福ですね。こういう子どもに育ててほしいです。

道元禅師さまも幸福とは『早く自未得度先度他の心を発すべし』と諭されているのです。『自未得度先度他の心』を分かりますか？

「今の幸福」で目指すところは、子どもがこのように成長することです。

「後期計画」は「今」の幸せをどう考えているのでしょうか。『「今」は幸せでなくても』とは「幸せ」について、いったい上の三つのどんなレベルで考えているのでしょうか。「何かもらえると嬉しい」「何かもらえなければ不幸」のレベルではないでしょうか。でも、私にはそんな最低のレベルではないかと思えるのです。

「今」の幸福を、子どもが三つのレベルで受け止められるように育てなければなりません。こども基本法第一条の目的の『生涯にわたる人格形成の基礎を築き』とは、このことを指しているのです。それを知らないで、それをやらないで何が「今」の幸福なのでしょうか。話にならないです。

私は、こんな後期計画になってしまうのは、長野県のこども家庭課の担当職員にも、児相の所長をはじめとした担当職員にも「宗教」がないからと考えています。「宗教」とは何でしょうか。「宗」とは人として生きる礎、基です。それが無い。「宗」を言葉にして話す。それが「教」なのです。なぜ、「宗」がないのでしょうか。東京大学名誉教授の仏教の碩学の中村元先生は、その原因を日本国憲法にあると見抜いています。日本国憲法はGHQが英文で作成し、それを国会が承認し、それを英文に直して発表しました。占領下にできた憲法です。草案の宗教の部分は英語で何と書かれていたのでしょうか。

宗教を表す英語は religion です。religion と宗教はぴったりと重ならない。違っているとあると話されました。英語では a religion , religions ,the religion と冠詞をつけたり複数形にして違いを表します。そして、日本国憲法の英文には、religion という単語は無く、すべて religious と形容詞なのだそうです。例えば religious activity というように。それを、憲法ではすべて宗教と訳して、宗教教育 (人としての生き方の基礎…幸せへの道) まで禁じてしまった。それにより、日本人がフラフラして、戦前にはなかったような恐ろしい事件がたくさん起きている。オウム真理教の事件や最近地裁の判決が出た統一教会事件も、正しい宗教、正しい生き方を教えてこなかったことの結果ではないでしょうか。

残念ですが、社会的養護の「基本計画 (後期計画)」にも、このことを感じるのです。とても残念です。だから、話し合いにならない。だから分かってもらえない。その結果不幸に

なるのは子どもで、結果についてはだれも責任を取らないし、とれない。結果が表れるのは、10 年も 20 年も、いや 50 年も先ですからね。

里親委託やパーマネンシー保障についても言いたいです。県はいったいそのリスクを里親に示しているのでしょうか。私は、生まれてから 76 年も社会的養護に関係して生きて来ました。子どもを育てる、ましてや永遠にその子と関係を持つことは大きなリスクを引き受けなければならない場合があるのです。実は、父の時代にあったのです。それも一つではありません。(私のいつも坐っている机の中に、父や関係者が負ったリスクの証拠書類があります。それは、本当に大変なことでした。最近、何気なく見た文書がその証拠書類であることに気付いてびっくりしました。それはいつも私を諫め、迷惑をかけた方への感謝報恩を心に刻ませているのです)

もっと言えば、何かの会議で『児相職員は里親委託を進めているが、誰も里親になろうとしないではないか』という発言がありました。なぜでしょうか。知っているからです。美辞麗句で、良いことだけを語っているけれど、裏があることを知っているのです。しかもその責任はすべて受諾した人と子どもが負い、自分は関係ないということを知っているのです。私は、17 年間も施設長の仕事を続けて、それが分かるので、それはないでしょうと訴えるのです。訴え続けるのです。

愛育園は、今年は、子どもが感じる幸せのレベル二を目指しています。たくさんの方ができるようになり、子どもが自信をつけることです。すると子どもが自分から変わって、自分でさらにできることを目指すのです。それは子どもにとってとても「幸福」なのです。分かってもらえないなあ。

きっと、貰うことが嬉しい、やってもらうことが嬉しい。だから大人はたくさん支援しよう。このレベルでしょうか。実に残念です。そしてそんなことは生涯続くわけがないのです。どこかで厳しい現実を知り挫折し、不幸になるのです。分からないなあ。

令和 6 年度 卒園式

主任指導員 T.M

3 月 23 日、円福寺愛育園の卒園式が行われました。今年は愛育園で 16 年間過ごしてきた高校 3 年生の女の子 1 名が巣立っていきました。私は男の子の生活しているあおぞらホームの担当なので、S さんの事については 16 年間ずっとそばで寄り添い続けた I 先生を中心にまごころホームの先生方や S さん本人や在園児童の文章をご覧いただき知って頂ければと思いますが、私も少し

だけ S さんの事をお伝えしたいと思います。

私は S さんが 5 歳の頃から知っていますが、S さんは見栄っ張りやプライドが高く、失敗が大嫌い、恥ずかしい思いをするのも大嫌い。だから、何か人前になる事を引き受けたりはしないし、新たに何かに取り組まないといけない時は、これでもかというくらい石橋を叩いて、叩いた後に渡らないというくらいに消極的な子でした。気の弱い所もあったのでよく泣いちゃうし、威張りん坊な所もあったので対人トラブルになっちゃうこともありました。幼児さんの時も小学校も中学校も高校もそんな感じだったと思うのですが、高校 3 年生の後半あたりから少し変化を感じました。それは、自分の弱さを自分で口にできるようになった事です。昔ならプライドが邪魔をして、自分の弱さを認めるような事は絶対に言わず、言い訳したり、泣きわめいたり、ずっと拗ねたりするかしてうやむやにしていました。そんな S さんが卒園前に、「私はビビりだから、掛けられる保険は全部掛けたい。そう私は保険の女！うふふっ」と笑いながら言っていたのにはとても驚きました。そんな S さんの変化は、長年、辛抱強く S さんと関わり続け、支え続けた I 先生やまごころホームの先生方の賜物だと思います。そして、そんな S さんのこれまでを見て私はこう思いました。何か自分に自信を持てる様になるという事はやはり容易な事ではなく、どれだけ長年に渡って寄り添い続けても根本にあるさみしさや悲しさが完全に埋まる事は難しいし、自信の無さが解消される事もまた難しいです。ただ、寄り添い続けてあげる事によって自分の弱さを明るく受け入れて、周囲にまで明るく吐露できるようになったというのは、自立して社会に出ていくという点においては非常に大きな強みなのではないかと思えます。

S さんには「自分の弱さをさらけ出せるようになった S さんは、これまで以上に人から好かれるようになるし、きっと気持ちも楽だね。」という言葉を送りました。看護師を目指して看護学校に進む S さん。是非、夢を叶えて欲しいです。



16 年間という長い歴史をアルバムやスライドとして制作して下さったり、こんなに風に送り出してもらえたら嬉しいだろうなあが全て詰まった卒園式となりました。S さんも前日のリハから含

卒園式自体も素晴らしい式になりました。S さんのために、他の児童や先生方が心を込めて準備をしてくれました。整った会場、式中の雰囲気大切にしようとする子ども達の姿勢、想いのつまった「旅立ちの日に」の歌声、去年一昨年卒園生から祝電が届いたり、多くのご来賓の方がご出席して下さいました。その中に小学校時代の恩師の先生が S さんの為に急遽参加して下さいました。サプライズがあった事、また、まごころホームの先生が

めてずっと泣きっぱなしでした。とても立派でした。

卒園式は、年度の最後の大きな行事です。一年間の活動や様子が卒園式に表れると思っているのですが、素晴らしい卒園式ができたという事が令和 6 年度の一年間の充実ぶりまで表してくれておりとても嬉しかったです。

令和 7 年度は高校 3 年生の子たちが 4 人もいます。良い一年を過ごし、それぞれ良い形で卒園の日を迎えられるようにサポートしていきたいと思っています。

卒園式

まごころホーム長 I・S

3 月 23 日に卒園式が行われました。今年度の卒園生は愛育園で 16 年間生活してきた S さん。私は S さんが愛育園に来た時から一緒に過ごしてきました。この 16 年を振り返ると本当にたくさんの思い出がありますが、その中でも思い出に残っていることを少しお話ししたいと思います。

S さんは小さい頃から人の世話を焼くのが好きで、よく私たち職員の近くに居てはたくさんのお手伝いをしてくださいました。自分よりも小さい子にはお姉さんとして一緒に遊んだり、優しく接してくれる姿がとても印象的でした。その反面泣き虫なところもあって、負けず嫌いで、頑固で失敗するのが苦手で、新しい事にチャレンジすることが苦手な性格



でもありました。そんな S さんですが、小学校低学年の時に自分からピアノを習いたい！と志願し、園長先生に当時の担当の先生とお願いへ行きピアノを習わせてもらうことになりました。最初は楽しく通っていた S さんでしたが、レベルが上がっていくごとに難しくなり、いつしか練習も消極的、なんだったらピアノが嫌いになった時期もありました。そんな中愛育園の行事で伴奏を任されることになり、練習嫌いな S さんが一生懸命練習するようになりました。大勢の前で伴奏をすることにとっても緊張し、当時はピアノの横に職員が付いて伴奏していたのも今となってはいい思い出です。今では堂々とピアノを弾いていて、この卒園式でも 4 曲伴奏をしてくれました。今回初めて歌った「旅立ちの日に」は約 2 か月も練習していました。最後までやり遂げた姿はとってもかっこよかったです。また S さんはとても心配りができます。行事の準備や片付けもそうですが、日常生活の中でも職員がバタバタ忙しくしていると周りの状況を見て、自分の出来るこ

とを率先して手伝ってくれます。集団で生活していたからこそ、細かいところにも目が行き届き、相手の立場に立って行動できるのはSさんの長所でもあります。そんな長所が活かせるような進路選択ができたらなぁと考えていたところ、「看護師」という目標を見つけることができ、高校3年間は進路実現に向け勉強もアルバイトも頑張ることができました。しかしすべてが順調だったわけではありません。苦しい時期もありました。どうやったら困難を乗り越えられるか私はSさんのために何をしてあげたらいいか、などSさんとたくさん悩みました。自分の弱い所を認めながら一生懸命困難を乗り越えようとSさん自身が頑張っていたことや、ホームの先生や子どもたちが心に寄り添ってくれたことで、一つ大きな壁を乗り越えることができました。これをきっかけに自分自身を振り返ることができるようになり、Sさんが変わった一つのきっかけになりました。卒園が近づくとつれ、不安な気持ちも大きくなっていましたが、そんな気持ちも素直に口に出せるようになったこともすごく成長したなぁと感じます。卒園式ではSさんから気持ちのこもった言葉を聞き、愛育園への思いがとても伝わってきました。4月からはSさんが目指している看護師への第一歩がスタートします。16年間一緒に過ごしてきたので、お別れをするのはとてもさみしいですが、Sさんが自分の夢に向かって頑張れるよう愛育園みんなまで応援しています。

そしていよいよ令和7年度が始まります。今年度は4名の児童が卒園を控えています。それぞれが自分の進路と向き合い、一年後立派に卒園式を迎えられるよう支えていきたいと思ひます。そして令和7年度も子どもたちがたくさん成長できるよう支えていきたいと思ひます。

『卒園式』

まごころ職員 TS

先日、卒園式が行われました。今年度はまごころホームの高校3年生Sさんが卒園していききました。Sさんは16年間園で生活をしてきており、私自身は入職以来9年間同じホームで過ごしてきました。初めての担当がSさんで、2年間持たせていただきましたが、活発で自分の考えを持っており、笑うのも泣くのも全力だったSさんの姿が印象的でした。そんなSさんですが、成長するにつれ周りをよく見て気を利かせて動いていたたり、年下に優しくしていたり、どんどんお姉さんらしくなる姿にすごいなと思ひていました。一方で、自信があまりなくても強がってしまい、なかなか素直に弱さを出せずにいる姿もあり、心配してもしました。そんなSさんが、ずっと夢に掲げていた看護師の道を目指すために、看護学校に無事合格して進路を決めたことは本当にすごいことだと思ひています。卒園式もホームのみんなまで別れを惜しんで温かく見送ることができました。これから新しい環境で慣れないこともあると思ひますが、夢をかなえるために一歩ずつ頑張っていって欲しいなと思ひます。

卒園式

まごころホーム M・H

3月23日に卒園式が行われました。空気に春らしさを感じる中、温かく門出を祝う事ができました。卒園したSさんと私が出会ったのは、Sさんが中学1年生の時でした。Sさんとはキャンプなどの行事で同じ班になることが多かったり、まごころホームでもたわいもない話をたくさんした思い出がたくさんあります。Sさんはまわりをよく見ていて、とても気が利くので、キャンプでは料理の準備を積極的にしてくれたり、手が足りていない所に「私やるね」と言って動いてくれました。どうやったらいいか分からなくて、わたわたしていた私より、何年も行事を経験しているSさんの方が、場数を踏んでいるので落ち着いていて、すごく頼りになるなぁ、と思ひました。

また、他にもSさんとのことで印象に残っているのは、受験です。Sさんは自分の夢である看護師になる為、看護学校を受験しました。受験勉強をする中で私は、Sさんに勉強を教えたり、問題を一緒に考えたりする機会が多くありました。努力し続け、無事に志望校に受かることができ、本当に良かったです。私も、自分のことのように嬉しかったです。

人のことを考えて行動できるSさんには、看護師という仕事はとてもぴったりだなと思ひます。夢が叶うことを願っているのですが、卒園を迎え、会えなくなってしまうと思うと寂しい気持ちもあります。これからは、影ながらエールを送りたいと思ひます。

Sさん、卒園本当におめでとうございませう。これからも応援しています。



卒園児童お別れの言葉

令和6年度卒園生 Y・S

私は、2歳のときから16年間愛育園で生活してきました。今日は、16年間の思い出をお話ししたいと思います。

私は、小学校3年生から中学校3年生までピアノを習わせてもらっていました。私がピアノ

を習いたいと思ったきっかけは、小学校の音楽会で友達が伴奏している姿に影響を受けたからです。そして、私は、園での行事で伴奏することを目標にしました。ピアノを始めたばかりの頃は、

レッスンに行くのも練習するのも楽しかったけれど、段々と曲も難しくなっていき、練習しても上手く弾けずにレッスンでは先生に八つ当たりして、泣きながらレッスンを受けることもありました。そんな時、当時担当だったT先生が話を聞いてくれ、ピアノの先生の所へ一緒に謝りに行ってくれました。あの時は、ありがとう。そして、中学生になって、私は、卒園式での伴奏を頼まれました。その時は、とても嬉しかったです。また、7年間続けたピアノを通して、練習すれば必ず上手くなるんだなと思いました。

次に、箸ピーです。私は、1年の行事の中でも1番といてもいいくらい、箸ピーが大好きでした。小さい頃から、優勝を目指し、練習をしていました。上位に入れるときもあれば入れないときもあり、嬉しい思いや悔しい思いをたくさんしました。また、私が小学校2年生のときからは、埼玉県川口市で開かれる箸リンピックに選抜された人が出場するようになりました。私は、第1回目と3回目と4回目の大会で、代表に選ばれました。思うような結果を出すことは出来ないことが多かったけど、最後まで諦めずにやることが出来ました。コロナ禍が明けてからは、愛育園全員で参加するようになりました。最後の大会では、優勝することはできなかったけど、全力でやり切ることができました。箸ピーに出会えて良かったです。



次に、昨年の愛育園祭での書道パフォーマンスと飲食ブースのルミナスです。書道パフォーマンスはダンスを入れたり、1部・2部と構成を分けてやりました。今までにやったことのないかたちだったので、少し不安でした。振り付けを覚えたり、書く位置を覚えたりするのに、とても時間がかかりました。でも、愛育園祭当日、来てくださったみなさんに最高のパフォーマンスを見せることができました。また、飲食ブースのルミナスでは、お客さんや幼児さん、小学生が喜んでくれるように、まごころ高校生で準備を進めました。自分たちの納得する物をやることが出来ました。まごころのみんな、最高の思い出をありがとう。

次に、昨年の運動会での応援合戦です。私は、最後ということもあり、声出しを任せられました。私は、人前に出て何かをすることが苦手なため、不安しかありませんでした。でも、まごころみんなが応援してくれたり、T先生と一緒に声出し練習をしてくれたおかげで、自分なりの大声を当日出すことが出来ました。まごころの先生、中高生、T先生ありがとう。

次に、昨年の運動会での応援合戦です。私は、最後ということもあり、声出しを任せられました。私は、人前に出て何かをすることが苦手なため、不安しかありませんでした。でも、まごころみんなが応援してくれたり、T先生と一緒に声出し練習をしてくれたおかげで、自分なりの大声を当日出すことが出来ました。まごころの先生、中高生、T先生ありがとう。

16年間の思い出は、もっともっとたくさんありますが、最後に、看護学校合格までのことをお話しします。私は、4月からS専門学校に進学することが決まりました。この進学先が決まるまでに、I先生には、たくさんの心配と励ましの言葉をもらいました。私は、S専門学校を一般受験しました。夏の懇談会では、担任の先生から、今のままだと、合格は難しいと言われました。

また、過去の合格実績を見ても、倍率がとても高く、正直、無理なんじゃないかと思っていました。なので、違う看護専門学校を併願しました。その学校も、一般受験をしたため、結果が出るまで、毎日のように緊張していました。併願校の合格が決まり、少し安心しました。そして、S専門学校の合格発表は、試験の2週間後でした。結果は、合格でした。職員室で結果を見た時、正直、自分が受かるとは思っていなかったもので、とてもびっくりしました。この合格は、たくさんのおかげだと思っています。いつも応援してくれていた園長先生、そして、特に、勉強面でサポートしてくれたM先生には、とても感謝しています。ありがとう。

同じホームで過ごしたまごころ中高生、小学生、幼児さん。いつも、声をかけてくれたり、遊びに誘ってくれて嬉しかったよ。みんなとたくさん思い出を作ることが出来て良かったよ。嫌な気持ちにさせちゃったこともあるけど、仲良くしてくれてありがとう。

あおぞらのみなさん。みんなは、とても元気で、行事では、率先して動いている姿がいいなと思っていました。小学生3人と勇氣100%を踊れたのも嬉しかったよ。

庶務の先生。いつも病院に連れて行ってくれたり、受験の時には、送迎をしてくれてありがとうございました。たくさんお話しできて良かったです。

園長先生。いつも、私のことを応援してくれていてありがとうございました。励ましの言葉をかけてくれたり、ピアノを褒めてくれて嬉しかったです。

調理の先生。毎日、美味しいご飯を作ってくれてありがとうございました。16年間、美味しいご飯を毎日食べられて良かったです。そして、お弁当当番では、いつも、卵焼きを褒めてくれて嬉しかったです。

まごころの先生。いつも、私のことを応援してくれたり、困っていたり、悩んでいたりと声をかけてくれてありがとうございました。先生たちとたくさん話せて良かったです。

最後に、16年間、お母さんのように私を育ててくれたI先生に感謝の気持ちを伝えさせて下さい。私は、心が弱く、すぐ無理と決めつけ、苦手なことから逃げてしまっていました。でも、そんな私にも、優しく声をかけてくれ、気が済むまで話を聞いてくれたね。また、高校2年生の時には、学校で色々あったり、友人関係で悩んだり先生には迷惑ばかりかけちゃったね。あの時は、ごめんなさい。そして、いっぱい学校に来てくれてありがとう。いつも、先生がいてくれるのが心強かったよ。どんな時でも、私の味方でいてくれてありがとう。そして、時には、私のことを怒ってくれてありがとう。16年間、色んな事があったけど、先生と過ごし、たくさん思い出を作ることが出来て良かったです。16年間、本当にありがとう。



4月からの生活は、不安しかありません。けれど、愛育園で教わったこと、楽しかったことを

思い出して、看護師になるために、みんなに良い姿を見せられるように頑張ります。みんなも、夢や目標に向かって頑張ってください。応援しています。今まで本当にありがとうございました。

在園児童代表の挨拶



S・U (高2)

Sさん今日は、ご卒園おめでとうございます。Sさんと出会ったのは私が3歳のときなので、今から15年前になります。Sさんと過ごした日々の中で特に印象深い出来事をお話したいと思います。まずは、箸技大会です。日々の練習では、自己ベストを出そうと真剣に練習している姿がありましたね。私はその姿を見て、やる気をもらい練習を頑張ることができ、本番ではキング決定戦に出ることができました。また、団体戦では、緊張もあり、うまくいきませんでした。アンカーのSさんが逆転勝利に導いてくれました。あの時の感動は今でも忘れられない思い出です。

また、日常生活を送る中で、Sさんはみんなに気遣いができ、率先して行動してくれました。行事の準備や後片付けの時、自分から積極的に行動してくれていました。特に私がすごいと思うのは、誰かが体調不良で吐いてしまったときに、ためらうことなくすぐに片づけをしてくれる姿です。私は積極的に行動することが苦手なので、Sさんのそんな姿は私の憧れです。私もSさんのように、積極的な行動ができるように頑張っていきたいです。また、将来の夢をかなえるために勉強を頑張っていた姿も忘れられません。Sさんなら絶対素敵な看護師になれると思います。大変なこともあると思いますが、夢に向かって頑張ってください。応援しています。

また、Sさんとはこの15年間たくさん喧嘩もしたよね。ほとんどは些細なくならない喧嘩で時にはすごい言い合いの喧嘩になってしまった時もあったね。特にテレビのことで喧嘩が多かったね。卒園式の5日前には1日中、口をきかないほどの喧嘩もしちゃったね。しかも私は一日経てば喧嘩したことを忘れちゃうけれど、Sさんは結構根に持つタイプで、気まずい時間も正直ありました。でも今日でお別れだと思うと、すごく寂しいし、もっといっぱい喧嘩しておけばよかったなあと思います。Sさん15年間仲良くしてくれて本当にありがとう。

私も4月から高校3年生であと1年で卒園になります。将来は介護職に就きたいと思っています。Sさんのように立派に卒園の日を迎えられるように頑張っていきます。体に気を付けて元気でいてください。今までありがとうございました。

卒業・進級祝い夕食会

あおぞらホーム S・K



3月16日に卒業・進級祝い夕食会が開かれました。今年もバイキング形式で、お寿司や揚げ物、チーズフォンデュなど、バリエーション豊かな料理が並び、子どもたちは思い思いに食事を楽しんでいました。特にデザートコーナーでは、自分でクレープを作ったり、フルーツをチョコレートにつけたりと、それぞれの好きな食べ方を工夫しながら味わう姿が見られました。来年度、中学3年生になるRくんは、クレープ作りがとても楽しかったようで、「先生のも作りますよ!」と声をかけてくれました。手際よく生地を焼き、きれいにトッピングをしてくれたクレープは、とても美味しかったです。自分が作ったものを人に振る舞うことが嬉しかったのか、Rくんは満足そうな笑顔を見せてくれました。

食事の途中には、1年間の振り返りとして、園の行事を人気ランキング形式で発表する時間もありました。それぞれの思い出を振り返りながら、子どもたちは大いに盛り上がっていました。また、男の子たちが一発ギャグを披露し、会場を笑いで包む場面もあり、最初から最後まで笑顔が絶えず、賑やかで温かい夕食会となりました。

この1年を振り返ると、子どもたちは様々な経験を通して成長してきました。来年度は、新たな環境に進む子や、受験を控え勉強に力を入れる子など、それぞれの立場で大きな変化を迎える年になります。環境が変わることに不安を感じることもあるかもしれませんが、一人一人が自分のペースで無理なく前に進んでいけるよう、これからもそばで見守り、支えていきたいと思っています。



あおぞらホームだより

あおぞらホーム F・K

先日、愛育園では卒園式が挙行政され、卒園生のSさんが愛育園を巣立っていきました。あお

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

ぞらホームの子どもたちも卒園式の会場のステージバックの制作や会場づくりなどたくさんお手伝いし、みんなでSさんを送り出すことができました。あおぞらホームでは、今年度中学校に進学する子が1人、高校に進学する子が2人います。新たな環境に進み子どもたちにも期待と不安があると思いますが、ぜひ頑張ってください。

また、あおぞらホームでは、この冬はたくさんスキー・スノーボードをしに行きました。毎週スキー場に行き、滑る中で子どもたちもとっても上手になりました。中でも、今年度高校2年生になるKさんと中学3年生になるSくんは、普段は

特別運動神経がいいという訳ではないのですが、スノーボードはとっても上手になり園内でもトップクラスの実力になりました。子どもたちが夢中になって遊び、その中で自分自身に自信を持つことができるといい経験になったと思います。

これで令和7年度が始まりますが、今年度も、たくさん遊んで元気に楽しい一年にしていければと思います。



まごころホームだより

まごころホームK・S

日に日に厳しい寒さも和らぎ、春の陽気を感じられるようになりました。先日、愛育園では卒園式が行われ、まごころホームの1名が卒園しました。子どもたちは、卒園式に向け卒園生が良い気持ちで卒園できるようにと、たくさん準備をしていました。卒園式当日は、子どもたちが別れを惜しむ姿や「ありがとう、頑張ったね」と感謝と応援の気持ちを伝える姿がありました。これまでの準備があったからこそ、全員が暖かく卒園生を送り出すことができ、卒園生も気持ちよく卒園することができたと思います。

まごころホームには、幼稚園を卒園して4月から小学校に入学する子がいたり、クラス替えをして新たな環境でスタートする子もいたり、これからの新しい生活に大きな不安を感じている様子も見られます。また、高校三年生になる子も2名います。本格的に進学・就職への準備を始めていくようになり、難しく大変なこともたくさん増えていくかと思いますが、子どもたちに寄り添い、支えていけるよう更に気を引き締めていきたいです。新年度も子どもたちと共にメリハリをもって、楽しい思い出をたくさん作っていきたくです。

(令和7年4月10日発行 月刊「円福」535号付録)

調理室だより

調理員 I・H

肌寒い日々から、春の心地良い気候に変わり、卒業、進級の季節となりました。

そして、今年度も感動に包まれた素晴らしい卒園式が行われました。

卒園生の今後の幸せ、飛躍を祈り、新年度に向けての準備が始まります。その生活の支えになるよう、日々の温かい食事作りを心がけます。

【特別メニュー】

3月2日 ひな祭りメニュー

3月15日 やしろうま作り・・・今年は子供たちと作りました。

3月16日 卒園、進級お祝い夕食会(体育館で一味真さんによるケイタリング)

3月20日 お彼岸 団子

3月22日 おはぎ作り

3月23日 卒園式(一味真さんのお弁当)



【誕生日メニュー】

3月3日 Rさん・・・ネギトロ丼・カリカリポテト・チョレギサラダ・チョコフラペチーノ

3月11日 K君・・・ガーリックライス・手羽元の照り煮・抹茶パフェ

3月17日 A君・・・醤油ラーメン・手作り餃子・サケチーサラダ・フルーツタルト

3月25日 園長先生・・・釜揚げうどん・天ぷら・菜花のおひたし・三色フルーツの寒天ゼリー



